

東欧のブルガリアは広島市の市民団体が原爆展を開き、バラを介した福山市民との友好関係も続くなど広島県との草の根交流が活発だ。このほど広島市を訪れた伊藤誠駐ブルガリア大使(62)は、初夏に同国で開催される原爆展への支援を表明した。(金崎由美)

伊藤誠駐ブルガリア大使に聞く



市民団体がブルガリアで開く原爆展の意義について語る伊藤大使

原爆展 できる限り 支援

「今回、広島を訪れた目的は何ですか。ひろしま・ブルガリア協会が平和交流を続け、昨年8月には広島経済同友会が経済視察団を派遣するなど、広島とブルガリアの交流は深まっている。ぜひ広島を訪れたいと思っ

ていたところ、ブルガリアのポリソフ首相の来日と同行する機会を得た。福山市は世界的なバラの産地カザンラク市と関係が深い。日程都合で福山市に立ち寄れないのが残念だが、広島市民との連携を

確認する機会にした。日本についてはどうも。大関琴歐洲関の活躍などを通じ、日本への関心は非常に高い。外国語の授業で日本語を選択できる中学、高校もあり、人口比に占め

る日本語の学習者の割合はチエコや近隣諸国よりもはるかに高い。日本の漫画やアニメも普及している。日本が被爆国であることは知られていますが、都市部では広島で何が起こったか比較的知られているが、地方ではまだまだ。だからこそ、現地での原爆展開催など地道な活動はとても大切な。今年5月から6月にかけて、ひろしま・ブルガリア協会が、原爆展を開くためブルガリアを訪れる。被爆国の大使館としてできる限り支援し、市民の相互理解に貢献したい。

いとう・まこと 愛知県出身。1972年、外務省に入省。国際情報課長、米デトロイト総領事、タンザニア大使などを経て、2010年10月からブルガリア大使。